

## 概要報告

### CITES 掲載種分類学能力構築

#### (1) 開催概要

1. 開催日時：平成 28 年 3 月 15 日～18 日
2. 開催場所：マレーシア・クアラルンプール
3. 研修生：ASEAN 諸国及びモンゴルの 10 カ国から計 28 名
4. 講師（6 名）：
  - ・ Dr. IRAWATI (LIPI, Bogor Botanic Garden)
  - ・ Ms. Wita Wardani (LIPI, Bogor Botanic Garden)
  - ・ Dr. Bayu Adjie (LIPI, Bali Botanic Garden)
  - ・ Dr. Muhammad Irham (Museum Zoologicum Bogoriense, LIPI)
  - ・ Dr. Amir Hamidy (Museum Zoologicum Bogoriense, LIPI)
  - ・ Ms. Claire Beastall (Training & Capacity Building Coordinator, Traffic Southeast Asia)

#### (2) 研修の目的

貴重な生物多様性を有する ASEAN 地域およびモンゴルにおいて、その保全を実現するために行政官の能力開発が急務であることから、CITES 掲載種識別に関する研修を、自ら計画、実施できるような人材を育成すること。

#### (3) 研修で期待される成果

研修参加者が計画策定から運営まですべてを担って国別研修を実施すること。

#### (4) 研修の内容及び成果

##### 【1 日目概要】

開会式では、開会挨拶として、インドネシア科学院より講師として招聘された元ボゴール植物園園長の Irawati 氏が挨拶した後、主催者である環境省自然環境局生物多様性センターの担当官が、共催の労を取ったインドネシア科学院に対して謝意を表し、参加者の遠路の参加をねぎらうとともに充実した研修内容になるように希望すると述べた。また、事務局として ESABII 事業の紹介を行った。

研修 1 日目としては、開会式終了後、アイスブレーキングとして各参加者の挨拶を兼ね

た紹介が行われた後、研修プログラムの策定を依頼したインドネシア科学院において中心的な役割を果たしている Wita Wardani 氏より「CITES 概観」と題する報告が行われ、そこでは、制度的枠組みや附属書などの実際の手続きに関する説明が行われた。また、午後にはランの専門家である Irawati 氏の講義で、「ラン植物と CITES」、「ラン科植物」など5つのスライドが準備され、植物のうち25%を占めるラン科植物について、CITES 附属書に記載されている特徴および生態などが説明された。またシダ植物の専門家である Bayu Adjie 氏からは、「CITES 掲載植物ーシダ植物の識別」と題し、CITES 掲載種としてのシダ植物について、その基本的特徴および取引の背景等が解説された。



## 【2日目概要】

2日目は、3日目早朝より訪問する国立動物園を意識したアジェンダが生まれ、インドネシア科学院より今回招聘された動物および鳥類の専門家による特別セッションが行われた。インドネシア科学院の Amir Hamidy 氏は爬虫類の専門家として、附属書に記載されている種の分類や識別について、画像付きで分かりやすく説明した。また、Mohammad Irham 氏は鳥類の専門家として、CITES 掲載種を紹介し、同じく個体の識別や分類等について解説した。

午後は、昨年度と同じくマレーシア森林研究所 (FRIM) にて現地実習を行った。今回の森林研究所における実地研修では、午後のみという事もあり、昨年度実施した標本室訪問等を行わず、もっぱら研究所内のフィールドにて実際の植物を見ながらの研修となった。初めに香木等が生い茂るフィールドにて実地研修を行い、マレーシア天然資源省から参加した研修生の1人もこれらの香木に詳しく、落木を使用しての解説に他の参加者は熱心に耳を傾けていた。その後、Irawati 氏や Bayu 氏が実生する植物を実例として、1日目の講義内容も踏まえた説明を行った。また、トレッキングコースでも、参加者同士で1日目の講義で説明されたラン等の生息状況等を観察し、共有した。



### 【3日目概要】

3日目は、午前中に野外研修として国立動物園（Zoo Negara）を訪問した。始めに担当者より動物園の施設や研究体制などの概要のレクチャーを受けた後、研究所内を移動し、園内ガイドおよびインドネシア科学院の専門家の案内のもとで実地トレーニングを開催し、研修生との活発な質疑応答を実施した。なお、爬虫類専門館は現在工事中であったが、講義室横にある実習スペースにいくつかの生体を持ち込み、観察しながらの実習となった。

また、午後は会場であるホテルに帰り、Wita Wardani氏によるCITES附属書についての講義が行われた。前2日間で行われた講義が主としてCITES掲載種としての分類方法についての講義であったのに対し、3日目はより実践的な内容として附属書を使用しながらの講義となり、「CITES掲載種－ウツボカズラ種とおよび他の植物」および「CITES附属書の使用」について講義がなされた。



#### 【4日目概要】

4日目には、新たな試みとして研修参加各国による国別報告を行った。ここでは、各国の状況や制度的枠組み、問題点などが参加国に共有された。また、昨年まで共催者として研修プログラムをリードしてきたトラフィック・サウスイーストアジアより Claire 氏を特別講師として招き、CITES における規制についての特別講義が行われた。

閉会式では、主催者として環境省担当官より挨拶があり、講師を務めたインドネシア科学院および協力者への本事業への謝辞を述べた後、参加者それぞれが今回の研修を糧に自国へ帰ってから研修内容及び資料を有効活用し、継続的に活動していくことを希望すると述べた。

以上のように、4日間の研修は主としてインドネシア科学院や現地関係者の尽力によって行われた。

